る月が多く出たのが2冬で、1冬は、変化がみとめられない。アジアハツカネズミは、2冬だけしらべたがいずれも月別には100:100とみてよい。

しかし、6カ月間を合計したものでは、クマネズミでは1冬だけ♀の方が多いいえ。ドブネズミは3冬とも♂の方が多いとみとめられ、アジアハツカネズミは、1冬だけ♂の方が多いとみとめられる。

いずれの種類も、積雪期半年間の季節的变化は認められない。夏季の採集で得た個体数は少なく、冬の材料と同時に論ずるのには不適當である。

3年間の総計についてみるとクマネズミは♀が少く、ドブネズミ及びアジアハツカネズミは♂が多い。これは、♀♂の少しずつの差が累積された結果であるが、この少しずつの差はネズミ類の生態によつて生じたものと考え。冬の間もドブネズミ、ハツカネズミは相当数屋外に営巣していると思われるが、駆除に際しては哺乳中の♀などが行動の制限によつてワナや毒餌にかかり難いのではないか。これに反しクマネズミは一年を通じて家内にあるためにむしろ哺乳中の♀の方がワナや毒餌にかかり易いのではないかと思う。〔北大農業動物〕

神戸市に於ける鼠類の研究

Miyata, I.: Studies on rats of the city of Kobe.

宮田 彝 徳

神戸市に於て捕獲せる鼠類に就て、それらの生態分布などに関する調査を行い、且つそれら鼠類の外部寄生虫、特に蚤類につき、又内部寄生蠕虫類に就ても検索し得た成績があるので、併せてそれら各事項の概要について報告する。〔神戸市衛生研究所〕

大阪市内における棲息鼠の様相について

Tanaka, H. and Ikuzawa, M.: On the studies of the rats in Osaka City.

田中 英雄 生澤 萬壽夫

大阪市内の鼠族の様相については昭和25年1月から6月迄は *R. n. norvegicus* が優勢を示したがこれは食物等による一時的移動の関係と思われる。その後 *R. r. alexandrinus* が漸次優勢を示し本調査によるジェン台風

以後は明らかに本種が優勢を示している。

本調査による材料は昭和25年10月16日から昭和26年2月28日迄の間に大阪市内の各区で捕鼠籠によつて捕えられた15,501頭の鼠類である。

全捕獲鼠の種類は *R. r. alexandrinus*, *R. r. rattus*, *R. n. norvegicus*, *R. r. hibernicus*, *R. n. nor. x.*, *R. n. albinus* 等で、その百分比は *R. r. alex.* 76.1%, *R. n. nor.* 23.7%, *R. n. hiber.* 0.2%, *R. r. rattus* 0.01% で *R. r. alex.* が高率を占めている。更に種類の点から見ると、昭和25年1月から6月迄 *R. n. nor.* の多かつた西淀川区此花区の臨港地域は台風以後 *R. n. nor.* が急激に減少し *R. r. alex.* 西淀川区90.1%此花区78.7%に対し *R. n. nor.* は西淀川9.9%, 此花20.4%に過ぎない。これは台風による *R. n. nor.* の移動が考えられる。即ち周辺地区の西区、南区では *R. n. nor.* は夫々34.5%, 41.0%と比較的高率を示した。*R. n. hiber.* は昭和25年2月臨港地区で始めて捕えられたが、西成、南区等でも発見され市内中心部にも繁殖しつつあることを知るのである。

鼠類の性比については本調査期間の比較的寒冷時期では、*R. alexan.*, *R. norve.* 共雌が多く、全体的に見ると雌59.1%に対し、雄40.9%であつた。次に鼠族の外部寄生虫について見ると、*R. alex.* では *P. spinulosus* 34.46%, *L. bacoti* 26.7%, *D. caecigena* 11.2%, *Laelaptinae* 9.76%, *C. fasciatus* 9.25%, *R. nor.* では *Laelaptinae* 31.97%, *P. spi.* 27.64%, *L. bacoti* 26.69%, *C. fasc.* 6.87%等で、*R. alex.* では冬期寒冷期は鼠類が多く、*R. nor.* では鼠蟻が最も多いことを示している。尚夏期に見られた *X. cheopis* は全く見られなかつた。〔大阪市立医大〕

砂蚤の發育史について(予報1)

Tanaka, H. and Ikuzawa, M.: The life cycle of the sand-flea.

田中 英雄 生澤 萬壽夫

49年本邦に始めて見られたネズミスナノミ(*Dermaphila caecigena* J. & R.) は50年4月森下博士等によつて発表されたのであるが、本種の生態、習性、發育、被害状況等については未だ発表された文献等がないので、現在迄判明した調査実験について報告する。

外部形態に関しては既に発表されたが、多少追加すると、吻部大顎、上唇は他のネズミノミ類に比べて頑丈であり、特に大顎は基部から先端部迄小鋸歯を有し穿入に便となつてゐる。

発生状況は大阪市住吉区に最も多く昭和 25 年 11 月から昭和 26 年 2 月末迄の捕獲の内 *R. r. alexandrinus* に 11.2%, *R. n. norvegicus* に 2.41% 見られ鼠族の耳朶には種類の区別なく穿入するものと思われる。スナノミの発生現場における環境的条件としては冬期湿度 70%, 室温 3~10°C で比較の日当りの悪い家屋内に発見される。照度は室内 10 ルックス~50 ルックスである。鼠類の耳朶に発見されたのは 50 年 1~3 月に最も多く、50 年夏期には全く見られず、50 年 11 月中旬より再び見られ、51 年 2 月現在では大変多く見られる。これらは大阪市内では 50 年、51 年共住吉区、西成区に極限されている。産卵習性に関しては、本種は鼠の耳朶縁辺部より皮下結締組織に穿入し、尾部のみを出して産卵するのであるが、雌鼠は授精後鼠耳朶に穿入し 30 日前後で 7 耗前後に膨大しその体内は卵粒で充満する。この卵粒は一匹のスナノミでは長径 0.7 耗、短径 0.4 耗前後の成熟卵 300 内外、未熟卵 200 前後である。産卵は 30 日前後続き、実験室内では夜間の産卵が多く、1 回 1~2 個の卵を産下する。そして一夜における最も多い時は 10~15 粒である。この場合の室温は 10°C、湿度 50% 前後である。産下された卵表面は粘性なく乳白色で表皮は比較的厚く弾性に富む。

以上の点から産卵には最も湿度が重要な要因であるように思われる。 [大阪市立医大]

大阪府における砂蚤の発生について (特に昨年度との比較)

Fujito, S., Tsumura, Y., Buei, K., Hiraoka, K. and Shishido, T.: On the breeding of the rat chigoe, *Tunga caecigena*, in Osaka. (Comparison with last year's statistics.)

藤戸貞男・津村芳郎・武衛和雄・平岡興二・穴戸利彦

昨年 (1950) 森下、筆者らによつて報告された砂蚤 *Tunga caecigena* はその後全く見られなくなつたかのようにみえたが、たまたま本年に入つて再び発生しはじめたことが堺市から伝えられた。筆者らは 1951 年 1 月 29

日から 3 月 28 日に至る 2 カ月間、堺市において昨年発生をみた地区ならびに堺市内の全区にわたつて調査を行つた。その結果浸淫地区と思われるところから捕獲された鼠 336 頭に対する砂蚤の寄生状態は次表の通りである。

捕鼠数	被寄生鼠と捕鼠数に対する比				
	被寄生鼠	エジプトネズミ		ドブネズミ	
		♂	♀	♂	♀
336	30	14	7	5	4
		21		9	
	8.9%				

これを昨年度の同地区における調査と比較すれば、昨年において 24% の寄生率を示したのに比べて約 1/3 弱に減少してゐる。

つぎに 30 頭の鼠に寄生していた砂蚤の総数は 113 匹であり、両耳朶における寄生比は 51:62 で、一頭当りの平均寄生数は 3.4 匹、最高 7、最小 1 であつた。

なお現在までに発見された *Tunga caecigena* はいづれも♀のみであつて、♂は 1 頭も発見されず。また鼠以外の動物に対する被害も全く見出されない。

ちなみに、隣接の大阪市住吉区からも同様に発見されており、大和川を中心としたデルタ地帯に依然発生しているが、堺市の調査の結果からその蔓延状態は極限され、かつ昨年に比べて減少の傾向を示している。

[大阪府衛生部環境衛生課]

鼠族駆除用毒餌箱の喫食試験について

Furukawa, S., Chudo, H. and Mizobuchi, M.: Experiments on poison feeding box for rats.

古川澄子・中道平太郎・溝淵正美

現在市販されている殺そ剤の効力を見ると何れも顯著な差違が認められない、此処に何らかの方法でその喫食率を高めることができれば殺そ剤を有効に使用し得るわけである。第一に殺そ剤の仕掛場所により第二にそ族が物蔭等にて喫食する性質を利用し考えられた米國陸軍技術教程に示された駆除用毒餌箱により、仕掛場所別の喫